いまこの瞬間に生きること
L'abandon à la providence divine 18世紀　ジャン　ピエール　コサードJean

小泉友美
KOIZUMI

目次

ジャン　ピエール　コサード　Jean Pierre Caussade(1675-1751) 1

ジャン　ピエール　コサード　Jean Pierre Caussade(1675-1751)

「L'abandon à la providence divine 天の摂理のための精神放棄」は、18 世紀のキリスト教精神史において最重要視され、イエズス会士ジャン　ピエール　コサード Jean Pierre Caussade (1675-1751) の霊的書簡集であり、「いま　この瞬間を生きること」に身を委ねることで、精神放棄の魂の修養の道を歩むことができると教えている。その段階とは、「追認すること Ratification」「諦め Résignation 」「平和 Paix」「こころの祈り Oraison 」「無執着 Détachement 」であり、すべては「いまを生きること à présent 」ことでキリストの愛の内で平和に生きることである。その修養の道を簡単に紹介してゆきたい。

ジャン　ピエール　コサード Jean Pierre Caussade (1675-1751)
フランスのイエズス会司祭で、18 世紀の神秘主義運動の「静穏主義」に影響された作家であり、代表的著作は「いまこの瞬間に生きること L'abandon à la providence spirituelle」である。ジャン　ピエール　コサードはフランス　ロット県カオールに生まれ、1733 年から 1740 年まで、ナンシーの訪問女性修道会で霊的指導をつとめた。

「いまこの瞬間に生きる」ための魂の放棄への修養の段階

1「Ratification 追認する」
新約聖書　ルカ　3・ 8「悔い改めにふさわしい実を結べ」
すべてのこころの乱れ、混乱、苦々しさ、重圧に押しつぶされるこころの動き、愚かな空想力からできる限り遠ざかること。内なる悪 (le mal intérieur) によって余計な感情をかき乱されず、また押しつぶされないように。この「Ratification 追認する」ことの意味は、苦しみぬくことは耐えぬく (souffrir c'est supporter) ということ。
この「追認」とは、「辛抱」することによってこころをかき乱す様々な情熱から解き放されて、キリストの十字架への絶対の服従にすがり、ようやく魂の休息を得ることができる。

2「Resignation 諦め」
諦めを覚えることで、こころは平安と甘美さに溢れるようになり、その諦めとは、美の放棄 (L'abandon de la beauté), 貧しさの中での放棄 (L'abandon dans la pauvreté), 自己の放棄 (L'anéantissement de moi) であり、善きまたは悪しき隣人の行動に気を取られずに辛抱して苦労の中での服従を覚えること、退屈さ、哀しみ、絶望の感情ははわたし達の

どの感情よりも強く、どんな痛みにも耐え抜かなくてはならないこと。情熱もなく、愛着もなく、カミが望むままに、ただ自分を失うままに。(se perdre)

3「Paix 平和」
こころの平和には 2 種類あり、1 つめは敏感で穏やか、甘美であること。
2 つめは無感覚で、平和の精神は魂の奥底にあり表には顕れない。この魂は乾いて、まことに無味である。
キリスト教の平和とは戦いを放棄することで、敗戦の状態に身を置くこと。この境地に至るには、ほとんど無感情 insensible となり、大荒れの嵐から距離を置き、カミの摂理に身を委ねることで魂は一層強められて、平和の精神を得ることができる。

4「Oraison こころの祈り」
こころの祈りを捧げる時に、内なる静けさ (le silence intérieur) とこころの休息を感じることができ、口にしたり、行ったりするどんな行動よりも価値があり、憤慨することなく、動揺することなく、他人の悪い行いをも受け入れることは大きな恵みであること。自分の惨めさと、カミの助けを絶えず必要としていることを痛感することは、あらゆる状況にあって、謙遜と自己否定の祈りへと向かわさせる。例えば、読書や外的な修行に気を取られることなく、こころをころころと変えないように気をつけて、少しずつこころの動きを休ませながら日常の作業をゆっくりと進めて、過去という回想を捨て去ってゆく。

5「détachement 無執着」
カミのなすがままに任せて生きることは、ただひたすらに愛することであり、楽しむこともカミとともにあること。無執着とはこころを動揺することではなく、あなた自身であることに満足すること (contentez-vous de savoir que vous êtes)
いつでも、内なる穏やかさを脅かす役たたずの考えと雑念は、放っておかなければならない。

6「A présent いま」
わたし達を取り巻く人々は、いつも的確で正確な時間を追求したがるが、わたし自身は何も知らないし、知ることもできないし、知りたくもない。日々、カミの摂理に身を委ねて、出来る限り同じ事を繰り返さなければならない。この完全な放棄に心身を委ねる事で、わたし達は深く、平和を味わうことが出来る。今 (A présent), 荒々しい砂漠の中にあって、ただ独り死の経験を通して、カミとともに新生の経験を破壊 (anéantissement) という行為を通して知ることが出来る。
キリストの平和の精神が、今、あなたのこころとともに在って魂に語りかけてくれますように。
少しの気まぐれにも動揺せずに、焦りや後悔をせずに、謙虚さと憂い事なく、優しさと穏やかを持って行動することが、「今」を生きる幸せとなる。それがすべて。
Voilà tout ce qu'il y avait qui vous regarde.

ジャン　ピエール　コサードの「今この瞬間を生きることの精神放棄の修養の道」とは、「追認すること Ratification」「諦めること Résignation 」「平和 Paix」「こころの祈り Oraison 」「無執着 Détachement 」の段階を通してゆく。「今　この瞬間を生きること」とは、主の祈りの中にある「Que ta volonté soit faite 主のご意思のままに」任せることであり、過去を振り返ることなく、未来に向かうことでもなく、ただひたすらに「今」の瞬間に生きることで、こころの動揺から解き放されて、主とともに平和にあること。この「現在の神学」は、18 世紀フランスキリスト教神秘主義において独創的なもので、執着を捨て去ることで希望を見出せる肯定の神学といえる。「今」を生きることの重要さを深く考えさせられる。

2025 年 4 月 18 日　聖水曜日　フランス　祈

いまこの瞬間に生きることL'abandon à la providence divine 18世紀　ジャン　ピエール　コサードJean Pierre Caussade の霊的書簡をとおして

著　者　　小泉友美 Koizumi Tomomi

制　作　　Puboo
発行所　　デザインエッグ株式会社